

愛媛県 武道館 だより

第6号

平成18年3月
愛媛県武道館発行
〒790-0948
松山市市坪西町551
(☎089-965-3111)

祝優勝 全日本なぎなた 選手権大会池見敬子選手

愛媛県なぎなた連盟 理事

萬家 利恵

昨年の12月4日、日本武道館において行われた皇后杯第50回全日本なぎなた選手権大会創立50周年記念大会で、本県代表の池見敬子選手（愛媛県武道館職員）が見事優勝しました。

池見選手の優勝回数は通算6度目となり、今年の大会でも優勝すれば、優勝回数は歴代単独一位となります。このように、本県のみならず日本のなぎなた界に名を知らしめている池見選手の凄さは、技術力はもちろんのこと精神力にあります。実は池見選手の優勝回数のうち3回は、母親になってからの優勝なのです。現在も池見選手は、5歳になる息子正道君を育てながら、毎日自分に厳しい練習を課しています。

また、常に斬新なトレーニング・練習方法を取り入れるのも池見選手の特徴で、10年ほど前からボクシングを練習の一環として行っています。このように自分に新たな課題を与え成長し続ける池見選手の姿からは、人間として忘れてならない武道を大切にす心、己に克つ意志の強さを感じられます。

なぎなたは、現在その競技人口の減少が深刻な問題となっています。こういう現状だからこそ、なぎなたに携わる選手や私たち役員の一一人が、なぎなたの理念を心におき、協力し、楽しむ姿勢を忘れないことが重要だと感じます。それが、本県のなぎなた競技における底辺の拡大とレベルアップにつながると確信しています。



「媛の国」 柔道フェスティバル2005

愛媛県柔道協会 副会長
岡田 博

木の香漂う愛媛県武道館が完成開館して3年が経ちました。本大会主催の愛媛県では、スポーツ立県の実現を目指して武道館の活性化と柔道をはじめとするスポーツの振興や青少年の健全育成、国際交流の推進を図る目的で「媛の国」柔道フェスティバルを開催する運びとなりました。

この事業は3年計画で、17年、19年は国際女子柔道大会及びふれあい柔道教室を実施し、18年はふれあい柔道教室のみを実施するというものであります。

主管となる愛媛県柔道協会では、この機会に国際女子柔道連盟加盟195ヶ国に及び柔道の国際化を県民が肌で感じるとともに、柔道の醍醐味を満喫して貰おうと、2年前の経験を生かして、全日本柔道連盟のご指導を受けながら準備に務めて参りました。

平成17年12月13日、外国4チーム〔ドイツ、ベルギー、オーストラリア、チャイニーズ・タイペイ(TPE)〕と全日本、愛媛県選抜の6チームを招待して「媛の国」国際女子柔道大会を開催いたしました。

全日本チームには、世界選手権出場の宮本樹理選手、インターハイ、全日本ジュニア優勝の白石のどか選手と地元出身者2名のほか、技の切れる西田、横澤、上野妹、岡、渡邊とトップ選手がそろそろ豪華メンバーであり、愛媛県選抜には、昨年福岡国際優勝の進境著しい宇高菜絵(強化選手・帝京大)、昨年まで強化選手として活躍してきた風戸晴子(愛媛県武道館勤務)、全日本ジュニア3位の浅見八留奈(新田高)選手らが名を連ねて、柔道ファンの期待をいやが上にも膨らませるものでした。

当日は、3千名を超える観客が詰めかけ大いに盛り上がり、世界レベルの豪快な技が決まるたびに沸き上がる大きな歓声が武道館に響きました。

外国選手は、愛媛県武道館の総工費138億円のその規模や内装外装に驚いていました。特に、現代建築の粋を集めた木造建築の主道場に展開する最大8面(1024畳)の「浮上式柔道用床転換システム」には、興味が尽きぬようで係の人に何度も質問を繰り返しておりました。練習会場は、常設の柔道場(3面・384畳)を使用しましたが使い勝手の良さが好評でした。

開会式は、今年、昨年の全国小学生体重別大会に出場した女子選手の掲げるプラカードに先導されて各国選手団が入場し、各国の国旗が翻る中、華やかに行われました。

試合は、団体5人制(先鋒52kg級以下、次鋒57kg級以下、中堅63kg級以下、副将70kg級以下、大将は無差別)、点取り方式(点数制、引き分け有り)、IJFルール(代表選はゴルドンスコア)により行うこととし、抽選による3チームずつのリーグ戦とリーグ1位間による優勝戦を行いました。

大会は、五島昌明愛媛県柔道協会会長の開会宣言、加戸守行愛媛県知事のあいさつ、嘉納行光全日本柔道連盟会長の祝辞のあと開始されました。試合結果は、次のとおりです。

観戦記 愛光学園 近藤哲平四段



第一試合場(予選Aリーグ) 第一試合

愛媛県選抜	3-2	T P E
先 浅見八留奈	○横四方固	チャン・C
次 宇高 菜絵	○大外刈	ヤン・H
中 山邊 清香	優勢勝○	ワン・C
副 風戸 晴子	○十字固	リウ・S
大 水口 まり	大外刈○	ツアイ・H

先鋒戦 お互い右組みの相四つ。激しい組み手争いから、チャンが背負投げを掛ける。浅見はそれをつぶして寝技に移行。横四方固めで抑え込み「一本」。

次鋒戦 序盤から宇高のペース。宇高は力強い組み手で得意の大外刈りで「有効」。試合開始から1分過ぎ、また大外刈りで投げ「一本」。

中堅戦 序盤はお互い自分の組み手になれず、なかなか技が決まらない。その後、技の出ない山邊に「指導1」。ワンは何度も大外刈りを掛けるがポイントを奪うには不十分。そのまま時間となりワンの優勢勝ち。

副将戦 けんか四つの両者。風戸は序盤から積極的に内股、体落として攻め、消極的なリウに「指導1」。その直後、風戸の十字固めが決まり「一本」。

大将戦 体格で勝るツアイが強引な大外刈りで「一本」。

第二試合

T P E	0-3	ド イ ツ
-------	-----	-------

第三試合

愛媛県選抜	2-1	ド イ ツ
先 浅見八留奈	引き分け	リールカ・M
次 宇高 菜絵	○優勢勝	ブファール・F
中 山邊 清香	引き分け	フォンハニエー・A
副 風戸 晴子	○横車	グレイブ・E
大 徳永真梨恵	大外刈○	コニッツ・K

先鋒戦 開始30秒過ぎ、リールカが大内刈りから内股に変化して「技有り」。2分過ぎ、浅見が相手の一瞬の間をつき、片襟の大外刈りで「技有り」。残り40秒、浅見の掛けた大内刈りが「効果」と宣告されるが取り消され、そのまま時間となり引き分け。

次鋒戦 けんか四つの状態から宇高はブファールの掛けてきた肩車をうまくつぶして「効果」。その後、姿勢の悪いブファールに「指導1」。残り50秒、組み手争いからの足払いで「効果」を追加した宇高の優勢勝ち。

中堅戦 お互い力強い組み手争いを展開する。フォンハニエーは相手の技をつぶして寝技を狙う。一度抑え込むがすぐ逃げられる。結局お互いポイントを奪えず引き分け。

副将戦 開始直後、風戸が足払いで「効果」。グレイブは長身を生かして奥襟をつかむ。1分30秒過ぎ、グレイブの強引な大内刈りが「有効」。2分過ぎ、技の出ない風戸に「指導1」。グレイブは残り1分15秒、大外刈りで「技有り」。その後グレイブが強引に大外刈りを狙うが、風戸はそれを横車に返して「一本」。風戸の逆転勝で愛媛県選抜の勝利が決定した。

大将戦 体格で勝るコニッツが見事な大外刈りで「一本」。

観戦記 松山大学 樽木武治四段

第二試合場（予選Bリーグ） 第一試合
ベルギー 3-2 オーストラリア

第二試合
全日本 5-0 オーストラリア
先 西田 優香 ○合 技 フォン・K
次 宮本 樹理 ○十 字 固 ルイス・C
中 上野 順恵 ○不 戦 勝
副 渡邊 美奈 ○送 襟 絞 シェパード・J
大 白石のどか ○合 技 グラント・S

先鋒戦 西田は開始から積極的に攻め、1分14秒左背負い投げから朽木倒しへと連絡し「技あり」を先取。さらに1分24秒朽木倒しで「技あり」を奪い西田の合せ技「一本」勝ち。

次鋒戦 宮本は内股で積極的に攻め試合の主導権を握り、1分57秒左からの小外掛けで「技あり」を奪うとすかさず腕ひしぎ十字固めに入り宮本の「一本」勝ち。

中堅戦 上野の不戦勝。

副将戦 渡邊右組み、シェパード左組みのけんか四つ。シェパードの右一本背負を潰してそのまま袈裟固に移行さらに送り襟絞に移行して、渡邊の「一本」勝ち。

大将戦 開始から白石が積極的に攻め、1分14秒小外掛けで「技あり」を奪うとそのまま崩れ上四方固めで抑え込み、白石の合せ技「一本」勝ち。

第三試合
全日本 5-0 ベルギー

先 西田 優香 ○不 戦 勝
次 宮本 樹理 ○十 字 固 ベイエンス・J
中 上野 順恵 ○横四方固 デグリセ・V
副 岡 明日香 ○袖釣込腰 アルク・J
大 白石のどか ○内 股 ルイシー・L

先鋒戦 西田の不戦勝。

次鋒戦 宮本左組、ベイエンス右組のけんか四つ。ベイエンスの攻めを宮本は余裕を持ってさばく。1分24秒寝技での一瞬の際を逃さず腕ひしぎ十字固めに入り宮本の「一本」勝ち。

中堅戦 デグリセは開始から積極的に攻めるが、上野は落ち着いてさばき、寝技へと移行。三角絞めから横四方固めに移行、上野の「一本」勝ち。

副将戦 岡は開始から袖釣込腰で積極的に攻める。1分23秒見事な袖釣込腰で岡の「一本」勝ち。

大将戦 白石左組、ルイシー右組のけんか四つ。白石は開始早々からの強烈な小外刈りで大きく崩すがポイントにはならず。その後も攻め続け、2分44秒左内股で白石の「一本」勝ち。

決勝戦

全日本 5-0 愛媛県選抜
先 西田 優香 ○背 負 投 浅見八瑠奈
次 宮本 樹理 ○優 勢 勝 宇高 菜絵
中 上野 順恵 ○優 勢 勝 山邊 清香
副 渡邊 美奈 ○袖釣込腰 水口 まり
大 白石のどか ○内 股 森実 友紀

先鋒戦 開始直後、西田の背負い投げが「一本」。

次鋒戦 けんか四つの両者。お互い組み手が厳しくなかなか自分の組み手になることができない。中盤以降から宮本の組み手になる。その後、姿勢の悪い宇高に「指導1」。宇高は反撃を狙うが、あと一步攻めきれず宮本の優勢勝ち。

中堅戦 序盤から上野のペースで試合が進む。上野は相手の掛けてきた大内刈りを返して「有効」。そのまま抑え込みが18秒で場外に逃げられ「有効」。その後、支え釣り込み足で「効果」。2分過ぎ、技の出ない山邊に「指導1」。そのまま時間となり上野の優勢勝ち。

副将戦 開始直後、渡邊の見事な袖釣込腰が決まり「一本」。

大将戦 白石が両襟から内股を押し込んで「有効」。2分過ぎ、左からの見事な内股で「一本」を奪い優勝に華をそえた。

合気道と柔道のかかわり

愛媛県合気道連盟 会長

松森 國彦

合気道の植芝盛平先生（明治16年生まれ）と柔道の嘉納治五郎先生（万延元年生まれ）、お二人のかかわりを紹介しましょう。近代柔道がその産声を上げたのは明治15年の6月、下谷は永昌寺においてである。当時は12畳ほどの道場で、門前は9人、嘉納治五郎先生は23才であった。嘉納先生は、それより前に、天神真楊流や起倒流などの柔術を習得されており、その稽古の体験から、「作り、崩し、掛け」という柔道理論を見出し、新たに「講道館柔道」というものを創始された人である。

嘉納先生が、近代柔道の開祖であると同じく、植芝盛平先生は、日本に古くから伝わる数多くの古武道を極めた末に研鑽し、柔術から「合気道」というものを創始した合気道の開祖である。近代日本における偉大な武道家である二人は、同じような思いを抱いて青年期を過ごしたこと、「精力善用・自他共栄」を目指したこと、で共通点がある。

植芝先生は、大東流合気柔術（後の合気道）の免許皆伝の師範であったが、師匠の武田惣角先生の伝えた大東流の「戦闘法としての合気」（大東流合気柔術）を超えて、「和合の道としての合気」（合気道）へと次元を新たなものにされた。

嘉納先生は、講道館の古武術研究会で、講道館護身術と他武道との差異を研究された際、昭和5年、目白にあった植芝道場（大東流合気柔術）を来訪された。この時、植芝先生の演武を見た嘉納先生は、「これこそが、真の柔道である」と、感嘆され、賞賛を惜しまれなかった、当時から合気道的な力の運用を視野に考えておられたとの逸話がある。

講道館に帰られた先生は、早速、植芝先生のとこに丁重な手紙を書かれ、4人の高弟（長岡秀一、武田二郎、望月 稔、村重有相）の指導を要請された。講道館から派遣され、植芝道場で稽古した長岡、武田氏は、合気道から古楽の講道館柔道に復帰された。

しかし、望月、村重両先生は、講道館柔道から合気道へ、と大きく舵を切られた。望月先生は、明治40年生まれ、静岡の総合武道・養正館の館長であり、日本大学国際研究所の依頼によりパリ支局長として赴任、フランスを中心にヨーロッパで柔道等の指導をした。

村重先生は、明治28年生まれ、多くの古武道を修業し、合気道界で最初に合気道9段位になった実力者であり、私の師匠、中村克也師範は、村重先生の直弟子である。

合気道界の先駆者である、村重、望月先生は、講道館柔道、嘉納治五郎先生の直弟子でもあり、お二人とも、合気道をする以前に修行した各種古武道の体験を活かし、国内だけではなく、ヨーロッパでも、アジアでも、合気道を中心に日本武道を幅広く教授し、外国での日本武道を根付かせ、育ててきた、日本武道の発展に寄与した人たちである。



相撲競技 おかやま国体の成果と 今年の展望

愛媛県相撲連盟 国体少年の部監督
松下 功次

10月23日から26日までの4日間にわたり、第50回国民体育大会相撲競技が岡山県和気町体育館で開催されました。本県からは少年・成年A・成年Bの三種別に出場しましたが、いずれも予選敗退という残念な結果に終わりました。

少年は、前年の埼玉国体で決勝トーナメントに進出したものの、あと一歩のところまで入賞を逃し、悔しい思いをしました。その後、「岡山では入賞」を合い言葉に、昨年末から各校の監督と連携しながら強化を図ってきました。しかし、春先から夏にかけて体調を崩す選手が多く、国体前の合宿も納得のいく稽古ができませんでした。スポーツ選手としての基本である体調管理の大切さを選手と共に痛感しました。このような中、国体に照準を合わせて調整してきた二年生の選手が、秋田県、高知県の強豪選手に勝てたことは、大きな収穫となりました。

成年A・成年Bは共に、取組中に選手が負傷し、残りの試合を二人で戦うというハンディと動揺で本来の力を発揮できませんでした。成年選手は週末の合宿に加え、平日にも合同練習を自主的に行い、コンディションが良かっただけに落胆の色は隠し切れませんでした。しかし、結果を残せなかった反面、この国体を通じて選手相互の信頼関係、チームの結束力が更に強くなり精神的な成長を遂げたように思います。また、稽古においても基本を重視し、しこ、すり足などの単調な基礎練習にひたむきに取り組む姿勢は、少年選手の模範となりました。国体の結果には表れないところで今後の進むべき方向性、チームとして戦うために大切なものを原点に戻って見つめ直すことができたように思います。

本年は、岡山国体を経験して成長した姿を見せることができるよう、入賞を目標に選手、役員が一丸となって精進したいと思います。少年は小柄な選手が多いため、体格差をカバーする

スピード重視の稽古に励み、全国の大型選手に挑みます。成年は大半が二十代後半で、これから選手としてのピークを迎えます。本年は入賞のチャンスです。岡山国体の経験が無駄にならないように、しっかりとチャンスを掴み取りたいと思います。県外合宿や合同練習を今まで以上に積極的にを行い、目標の入賞を実現させるため、また愛媛の相撲を全国にアピールするために愛媛県相撲連盟としても全力を尽くしていきたいと思っています。



愛媛県武道館からのお知らせ

愛媛県武道館では、本年4月1日から指定管理者制度へ移行しますが、県の指定を受け、(財)愛媛県スポーツ振興事業団が引き続き管理運営をさせていただくこととなりました。当事業団では、愛媛県武道館の単なる維持管理にとどまらず、愛媛県が推進する「スポーツ立県えひめ」の実現と平成29年開催の「えひめ国体」の成功に向けて、〈武道・スポーツの振興〉〈県民の健康・体力づくりの実践〉〈青少年の健全育成〉〈利用者サービスの向上〉を目標とし、その実現のために

- 心の健全育成や精神力の涵養を図ります。
- 技術の向上や技のみがきを応援します。
- 体力づくりや健康づくりを応援します。
- 山下名誉館長とのふれあいの機会を通じて子供たちに夢と希望を与えます。

皆様方の今後いっそうの御理解と御協力をお願い申し上げます。

主道場で予定されている大会等（4～5月）

競技	大会名	開催予定日	主催者等
バレーボール	フジカップ愛媛県大会	4月2日	家庭婦人バレーボール連盟
合気道	合気道講習会	4月23日	愛媛県合気道連盟
社交ダンス	四国ダンス競技大会	4月30日	日本ボールダンスルーム連盟
バレーボール	愛媛県バレーボール大会	5月3～5日	愛媛県バレーボール協会
剣道	松山市少年剣道錬成大会	5月7日	松山市剣道連盟
柔道	愛媛県少年柔道大会	5月14日	愛媛県柔道協会
剣道	中四国学生剣道選手権大会	5月21日	中四国学生剣道連盟

(注) 大会日程等は、今後変更の可能性あります。

スポーツ安全保険

スポーツ活動、文化活動、ボランティア活動などに最適な保険です。

スポーツ安全協会 愛媛県支部

(財)愛媛県体育協会内 TEL089-941-2111 (内線 5396)

対象となる事故
☆グループ活動中の事故
☆往復中の事故

ワイドな補償で
みんなの元気を応援します!

5名以上の
団体で
ご加入ください。